

PETER FONDA
WARREN OATES VERA BLOOM

"THE HIRED HAND"

スティーブ・マクハート

Digital re-master print Director's cut version

UNIVERSAL STUDIOS IN ASSOCIATION WITH THE PANDO COMPANY, INC. AND TARTAN FILMS PRESENT "THE HIRED HAND" A FILM BY PETER FONDA STARRING PETER FONDA WARREN OATES VERA BLOOM
ORIGINAL MUSIC BY BRUCE LANGHORNE ART DIRECTION BY LAWRENCE G. PAULL EDITING AND MONTAGES BY FRANK MAZZOLA CINEMATOGRAPHY BY VILMOS ZSIGMOND SCREENPLAY BY ALAN SHARP PRODUCED BY WILLIAM HAYWARD DIRECTED BY PETER FONDA
Restoration Produced by HAMISH McALPINE and FRANK MAZZOLA in Association with THE PANDO COMPANY, INC. Restored Version © 2001 Universal Studios and The Pando Company Inc. 00170 S.A. 011res/cover/Toby SHD/1.1.05. Distributed by Crest International. Presented by King Records.

まるで絵画のような—— 未だかつて観たことのない美しきウエスタン

I'm going back.
Where?
Home.

全世界に衝撃を与えたアメリカン・ニュー・シネマの代表作、『イージー・ライダー』の製作・脚本・主演を務めたピーター・フォンダ。その成功により一挙にカリスマのスターとなったフォンダが、その2年後の1971年、初監督作として撮りあげた『さすらいのカウボーイ』。当時、興行的には不遇に終わり、ひっそりと消えていったかのように思われたが、一部の人々には宝物のような映画として語りつがれる作品となっていた。それから30年、多くのファンから待ち望まれていた再評価の時を迎え、ついに2002年、その伝説はディレクターズカット版となって息を吹きかえす。

アメリカ西部の大自然に静かに息づく人間の営み。たゆむような時が流れ、人生をさすらう者たちの悲しくも美しい姿が、映像詩の中に浮かびあがる。多くを語りぬぐくシンプルな男の美学は観る者の胸を打つ。男の美学とは何なのか。ここにひとつの答えがあるかもしれない。



自由を求め、妻と娘を捨て旅立った男が、さすらいの果て、永年放浪を共にしてきた親友と一緒に家に戻る決心をする。突然の夫の帰還をすんなりと受け入れられない妻のもと、使用人—hired hand—として真面目に働くことで、少しずつ夫としての信頼を取り戻してゆく。だが、それは一方で友との別れを意味していた…。

今や、それぞれの分野でハリウッドの第一線を担う
素晴らしいスタッフ・キャストたちの若い才能が、本作に結集していた——

共演:『ワイルドバンチ』の故ウォーレン・オーツ
脚本:『ロブ・ロイ/ロマンに生きた男』のアラン・シャープ
撮影:『未知との遭遇』(アカデミー撮影賞受賞)『天国の門』のヴィルモス・ジグモンド
音楽:ボブ・ディランの名曲「ミスター・タンブリンマン」のモデルとなったブルース・ラングホーン
美術:『ブレッドランナー』のローレンス・G・ボール

至福ともいえるすばらしい発見。——*Empire*誌
胸をつき刺すような切なさや激しさ。——*Film Review*誌
神話の復活。その美しさに陶酔する。——*New York Times*紙



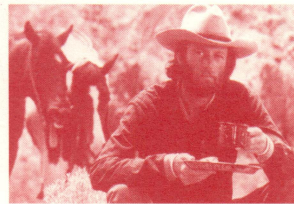
日本映画を代表する名匠、市川崑監督、『黒い十人の女』などで知られるこの永遠のモダニストが、70年代に惚れ込んだ映画が『さすらいのカウボーイ』。一方、監督・主演のフォンダも、市川監督の大ファンで、彼の映画を参考にしてこの初監督作を作ったという。相思相愛のモダンクリエイターたち。今回のリバイバル公開にあわせて、市川監督に貴重なお話を伺った。

70年代に、この映画を初めて観た時は本当に驚きましたね。まず、映像が本当にすばらしく、トップシーンを観た瞬間からすぐに引き込まれました。その光と影のバランスが印象的で、こんなに逆光をたくさん使った映画も珍しい。それまでのアメリカ映画はからっと明るいものが多かったのですが、この映像はぬれていて、どこか日本的な感じもありました。当時、『イージー・ライダー』が話題のピーター・フォンダですが、僕はこの映画の方が好きです。西部劇と聞いていたんですが、これまで見たこともないような内容で、特に中盤、フォンダが演じる主人公の奥さんが登場してからは、女性の描写が本当にすごくて…。これまで女の人は西部劇では、脇役だったんですが、あえて、これまでの映画が踏み込まなかった部分に突っ込んでいくフォンダの演出に感心しました。



主人公が、家に帰ると、年上の奥さんが待っている、という設定も新しく、人間の愛や孤独に関する分析も深く、新鮮でした。西部劇というより、人間を鋭く見つめた異色作だと思いましたね。

当時のフォンダは、まだ、若かったのに、本当にすごい才能だ、と末恐ろしくなりました。当時、これは僕のベスト1だと騒いだ覚えがあります。80年代にフォンダが日本の東宝に撮影で来ている、と聞き、僕もそこで新作を作っていたので、会社の噴水の前で会いました。何を話したかよく覚えていないんですが(笑)、とにかく、僕はお世辞じゃなく、『さすらいのカウボーイ』を絶賛しました。その時の二人の写真は今も大事に取っています。最近のアメリカ映画はサーカスみたいな映画を撮って興行的には成功していますが、残念なことに『さすらいのカウボーイ』のような人間を鋭く描いた映画はなくなりましたね。映像はどこか現実を超越していますが、一方では日常生活がリアルに、ていねいに描かれています。こんな映画はもう2度と現れないと思うし、その鮮烈な意識と感覚は、いまも本当に忘れられないです。市川崑(談)



さすらいのカウボーイ デジタルリマスタープリント ディレクターズカット版 THE HIRED HAND

2001年 ベネチア国際映画祭・トロント国際映画祭正出品、ロンドン映画祭招待作品
監督:ピーター・フォンダ 製作:ウィリアム・ハイワード 脚本:アラン・シャープ
撮影:ヴィルモス・ジグモンド 音楽:ブルース・ラングホーン 美術:ローレンス・G・ボール
出演:ピーター・フォンダ | ウォーレン・オーツ | ヴェルナ・ブルーム
2001年 | アメリカ映画 | カラー | 91分 | 1:1.85 |ドルビーSR
提供:キングレコード KING RECORDS
配給:クレストインターナショナル CREST www.crest-inter.co.jp

10月5日(土)より待望の公開!! 特別前売鑑賞券 ¥1500 絶賛発売中!
(当日一般 ¥1800のところ)

※スケジュール/タイムテーブルにご注意ください。レイトショー及びモーニングショーでの上映です。

10月 5日(土)~11日(金)	よる 8:20~1回上映(日曜休映) 終映22:00予定
10月12日(土)~18日(金)	よる 9:00~1回上映(日曜休映) 終映22:40予定
10月19日(土)~25日(金)	あさ10:00~1回上映 ※10月23日(水)のみあさ9:45より

梅田ロフトB1 06(6359)1080
テアトル梅田
http://www.cinemabox.com/